

支部活動報告

北播支部

北播支部では、6カ所の拠点があり、温泉施設、道の駅、ショッピングモール、病院施設など様々です。そして、それぞれの拠点に対して、北播支部の各施設から募集したボランティアスタッフを、コーディネーターを中心に振り分けています。その際、本人の希望を重視するとともに、「まちの保健室」活動を通して、各施設の交流となるように配置しています。

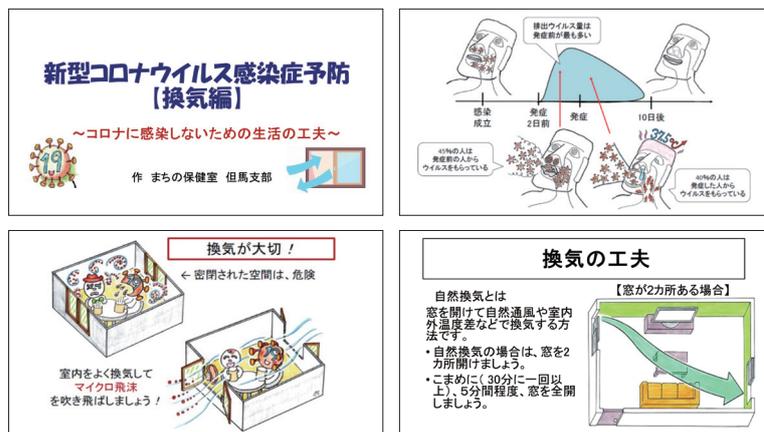
今年度は、コロナ禍の為、令和2年度に続いて「まちの保健室」活動が出来ていません。そこで、今年度は、「まちの保健室」活動再開にむけて、リーダーや新規メンバーも活動に戸惑わないように、拠点ごとにリーダー用とメンバー用の手順を作成しました。そして、今までは拠点ごとの手順管理だったものを、各施設にも配布し、北播支部内での拠点を担当しても、ボランティアスタッフが困らない、施設担当者も安心して送り出せるような手順の活用も検討しております。この一年は、充電の一年として、今後の活動を支える基となる活動が出来たと思っております。今後も、支部内の交流も図れる「まちの保健室」を目指して活動できるようにしていきたいと考えています。

但馬支部

コロナ禍での活動

今年度但馬支部では、看護ボランティア自身が新型コロナウイルス感染経路や感染源になることを極力避けるため、「まちの保健室」を実施することを断念しました。拠点にはその旨を説明して開設者を訪ねて説明し理解を得ています。

委員会ではリモートによる会議も取り入れ、コロナの現状把握やコロナ時期だからこそできる活動として、委員が3グループに分かれ、新型コロナウイルス感染予防をテーマに『マスク・換気・消毒』の3つの紙芝居教材を作成しました。再開後の「まちの保健室」健康教育等で活用する予定です。



紙芝居の一部です

今後の活動課題

但馬地域ではご高齢の方が多く、地域の方からの出前隊の依頼も多くあります。しかし今年度は、一度も開催できない年となってしまいました。WEBを活用したボランティア活動も考えましたが、機材がなく難しいと判断しました。今後は対面での「まちの保健室」が開催できるよう感染対策を十分考慮のうえ、準備をして開催したいと考えています。

